



竜丘村肥料割當配給數量決定

Table with 3 columns: 肥料名 (Fertilizer Name), 産業組合 (Industry Union), 商人 (Merchant). Rows include 硫酸安 (Sulfuric Acid), 石灰窒素 (Lime Nitrogen), 加里 (Gallium), 過磷酸石灰 (Superphosphate Lime).

備考 右の内産業組合は切符を用ひず組合員に配給をなし商人は左記様式に依る肥料購買券に依り配給をなし得る

- 一、硫酸 赤色 一畝又は三畝
二、石灰窒素 黄色 全上
三、過磷酸石灰 青色 全上
四、加里 褐色 一畝
五、臨時配合肥料 白色 一畝又は三畝

大満洲國建設勤勞奉仕隊員

林正信君のたより

去る六月十九日、満洲國建設勤勞奉仕隊として、我が竜丘青年會、青年學校を代表し林正信君より此の度元氣な便りがよせられた。

炎熱灼々北滿の地より暑中御伺ひ申し上げます。遙か祖國の會員皆様酷暑の折柄御壯健にて銃後青年として會務に又家業に粉骨碎身御精勵の事と遠察申上ます。降つて小生渡滿後暫らく御無沙汰致し誠に申譯ありません。今日は日曜日で仕事も休みでありますので渡滿後現地に於ての様子を少しお知らせ致します。

長野縣下伊那郡竜丘村大字時又三三三
編輯兼發行者 沖田一郎
印刷所 信濃産業新報社
發行所 竜丘青年會
代表者 下平三郎

新瀉へ着きました。新瀉市民は早朝にも抱らず出迎に出て居られました。出迎の皆様に敬意を表し、休憩所である万代小學校へと歩を進めました。十一時十分分學校を出發し新瀉港へと向いました。港への沿道では中等學生の喇叭隊の軍歌吹奏の下に手に小旗を持つた小學生を始めとし各種團體の方々の盛大なる見送を受けました。此の時の氣分は筆舌には表せない物がありました。之は只送られる物のみ深く感じる事でありました。

間もなく埠頭につき乗船です。船に乗り部屋に入り各自の荷物を下し甲板に出ました。出て見れば埠頭は旗の波です。小學校生徒はあらん限の大きな聲で萬歳を呼び又「しつかりやつて下さい」と呼んで居ります。此の時程我々に深い感激を與へた事は外にはありません。我々は内原で加藤先生に言はれた通り一言も語らず直立不動の姿勢で之を眺めて居たのであります。出帆の時間は刻一刻と迫つて來ます時なくして汽笛一聲エンジン音も心良く動き出しました。愈々我々も母國の土を離れたのです。見送り人は一層に力を入れて萬歳を叫んでおりました。船は静かに波を切つて進みます。次第に母國は小さくさくなつて行く國土を眺めてと夕暗の中を進んで行きました。

昭和十四年度壯丁者氏名報告

小林太郎、大野道雄、林義彦、後藤武次、今村五郎、原田甲子男、園原兼一、市瀬伸、三石金治郎、下平藤一、下平一夫、下田弘、今村直三、小笠原利治、金子源一、長沼善三、久保田正造、折金清、下平欽一、中島源吾、森山昇、伊藤秀一、原頼人、林清人、熊谷彦信、下平亮、伊原靜男、下井田廣志、河上勝、今村隆男、吉川忠規、森山和四郎、下平榮、塚平代三、熊谷利、下田統夫、伊藤計男



慈雨 雄良林小

雨上り先づ大根を蒔きにけり
慈雨を得ていきつきてけりわが陸稻
朝毎に涼氣立ち來るお盆かな
日輪のほのかに浮ぶ霧の朝

た。その内に左手に佐渡が見えた。此の時に佐渡と言つても大きなのに驚きました。皆で之は佐渡では無いだらう等と言つて居りますと船員が笑つてあれは佐渡であると云つて教へて來れました。此の大きな佐渡ヶ島が見えなくなつた頃はもう一面暗くなつてしまひ、見える物は空の星と月、聞へる物は波の音とエンジンの音のみ、船は大海に乗り出したのか大變揺れだした一米位は上下に揺れる。氣持

の悪くなる物が次第に多くなつて來る。小生は別に酔はなかつたのです。中には飯の喰へない物も大變できた。船の中では唯寢ては喰べ喰つては寢てまるでルンペンの様な生活でした。寢る所は棚になつてゐてそこへ皆一緒にゴロ寝です。蒲團もなにも無いので唯毛布一枚で寢た様な譯であります。(中略)

は特別の車で十六つて居りました。十月廿五分汽車は大陸の空氣をついて走り出しました。今晩一晩汽車の中で明かすとも明日はもう望望の満洲の曠野を走るのだと思つて嬉しくて中々眠れませんでした。七月三日の朝はきた。車窓にうつる山と野は大陸らしく又我々を迎へるかの如く見える満人家屋も点綴として見える。又今夜は汽車の中で寢るのだ。

たので皆嬉んだ譯な譯であります。來た日は午后は休んで五日の日より仕事に掛りました仕事と言ひましても自分の兵舎の附近の片付です。六日の日も之と同じ事。七月廿二三日の日曜に三小隊全員で川へ魚を釣りに行つて來ました。午前中にバケツ一杯取つて來ました。此の様に滿洲と言ふ所は暢氣な所です。滿洲は一望千里の大原野等と思つて居ると違ひます。平の所はもう大方畑になつて居り山もありません。山に木の無いと言ふ事は實際です。そのかはり桔梗、女郎花等の秋草の草が一面に咲き亂れて居ります。之を見る度に内地の盆時分の事を思ひ出します。月日の過ぎゆくのは早いものです。家を出てより一ヶ月と十日近くになりました。此の間元氣に目的達成の爲出來得る限の努力を致したつもりでありましたが皆様の御承知の通り未熟な者でありますから一層の御指導を御願致しまして御無沙汰の御詫お知らせ迄。早々康徳六年七月廿五日

圖、慰問文
其他慰問に適したもの
一、投稿先
龍丘編纂部部長
各區男女青年支會會長
亦は部員のこと
一、切
十月十日迄

雨上り新しきリヤカー
曳き行けばくつきりと
つく二條の跡
朝まだき友の墓前に額
けげすむるに憶ふ君が
面影
今日一日働き得しを感謝せり涼風そよぐ田の
面みつめて
チロ／＼と蟋蟀の鳴く
秋の夜半われ灯を消し
て眼閉ぢけり
ともすれば弛み勝ちなるわが心常に勵ませ親しきわが友

時下初秋の御益々御清適奉賀候其後は御無音に打過ぎ恐縮に御座候就ては小生今同突如内地歸還を命ぜられ候に付き一度飯郷なし親しく御拜眉の上御禮申述べき處一身上の都合に依り現地に左記に奉職致す事に相成り候間茲に應召出發以來一方ならぬ御配慮を賜り無事任務を果て得たる事を甚だ乍暑儀紙上を拜借して厚く御禮申上候 頓首
中華民國河南省開封市
華北交通株式會社
開封自動車營業所伊東茂雄

慰問號原稿募集
十月十五日付發行の時報は今年第二回目の慰問特輯號と銘打つて發行する事になりました。
村民各位より募集するものがあります。皆様の企に賛同下さつて右期間内に玉稿投稿下されん事を御願ひする次第であります。

双及劍
立秋、朝夕は涼氣が強く感じる様になつた。
だが日中はまだ残暑がジリ／＼と肌を焼く。
雨は降り／＼夏蠶上りと秋蠶の間に念じたかひもなく毎日お天道様の笑顔にはこのころ一寸／＼いこう。
この後が降らなければよいが秋蠶が盛りになつてからじやー増産に異常が出来ますぞ
天候は仕方が無い、後は努力一ツだ、我が丘の頑張部隊は増産街道をまっしぐらに突き進もうぜ。最後の蠶作と米作へ向つて。
天龍社第五工場も愈々着工して來年の春からは煙突から勢よく煙が出るそう。
待つて居ましたと歡聲を擧げたのは時又の商人連、だが思つた様に商があるかどうか、一寸疑問だらう。

時報編纂部
村民各位より募集するものがあります。皆様の企に賛同下さつて右期間内に玉稿投稿下されん事を御願ひする次第であります。

時報編纂部
村民各位より募集するものがあります。皆様の企に賛同下さつて右期間内に玉稿投稿下されん事を御願ひする次第であります。

時報編纂部
村民各位より募集するものがあります。皆様の企に賛同下さつて右期間内に玉稿投稿下されん事を御願ひする次第であります。



丘の村 組合便り

長い間信用組合に勤務中の、長沼善三氏は本年度徴兵検査に甲種合格、本月限り退職した。

養蠶業組合竜丘支部駐在指導員宮澤三郎氏は、一昨午出征以來南京攻略戦に従軍各地轉戦の處此度歸還、八月十四日元氣な顔で挨拶、従前通りの職に就く等である。

八月十二日生糸組合に於て、村農會、養蠶業組合、産業組合、合同の農事組合長會開催
一、秋蠶増産対策の件
一、肥料配給の件

生糸組合ではオート三輪車を購入、貨物運搬の爲活躍する事になった。
車はくろがね一九三九年型、單氣筒、組合員利便の爲爆音勇ましく村内を疾驅する。書類申請から購入と、車検検査合格迄僅か十日間にして備付けられた。



聖道場 西駒ヶ岳へ

桐生青年會

東京の人達が是非伊那節を聞かしてくれと言われて、床の中から唄い出しては笑ふ。ものすごく吹く風戸に當りて十一月位いの寒さ、自然に静かになりていびきが聞こえ出した。午前三時半もう目覺めた防寒全部つけて外に出る、

お、寒いと言ふ許り霧が大分晴れだした。東天ほのかに白く下げんの月細く見ゆ、やゝ富士が見えると云はれ東南の空を見れば南アルプス遙かに抜け出て、くつきりと繪の如く靈峰富士山の姿。あゝなんと云ふ美しさ益々寒さ加わ

り此のつめたさほゝかぶりをして御來光まで二十分許りあるとの話しに岩影に身をよせる。

宮田小屋に泊りし小學校の生徒凡そ百二十名位頂上めがけて上つてくる。愈々東天眞紅になり出した、一行は岩石の上を集つて寒さ忘れて今か々々と待つ、一纏二纏と全くはつきりと上り出した。日輪、金色の雲なびき雲海に映ゆる美しさ、筆や口に現はらず事が出来ません。

八月十六日原料改善委員會開催、春繭口挽回札の發表準備に着手。
本村産業組合教育部では、産組夏期教育者講習に、小學校訓導井上、矢澤、千里兩先生に依頼出席受講して戴いた。

愛友會文庫部第二回圖書八月下旬迄に購入の豫定。
工場では終業後、擴聲器を通じて音楽リズムに合せて、体操、舞踊を爲し國民保健週間の實を擧ぐ可く毎夕方實行中

無事におりて歸路準備。小屋出發十時、頂上に最後の別れを告げて宮田小屋へ一行記念撮影して十一時中食を終り岩影に美しく咲き誇る草花にも名残り惜しく一路赤穂に

と馬背を経て下山、西駒よ去らば皆な頂上征服のあの感じ山上の氣分忘れられず太田切川發電所へ三時着。夕立にあいて材木搬出事務所へ休み此處の主任は飯田出身で種々山の話しにつきない其の内に是非赤穂の菅の台の光善寺へ立寄つて行けとの進め一行

重い足を引きずりお寺へ行く一の門を通れば巨杉鬱蒼として如何に古きか唯驚きの目を見るは許り、靈犬早太郎の傳説深き所一同此の墓に參り五時赤穂驛着。八時無事大元氣にて身心鍛鍊並に武運長久祈願の出來し事を感謝して解散す。カクジ記

★青年會便り★
お盆休みの利用して
▲山に、川に▼
身心鍛鍊を行ふ!!
農村青年の体位向上を目指す身心鍛鍊を叫ばれてゐる時各支會に於てはそれ／＼お盆休を利用して山に、川にとその實の一端を上げた。

桐林支會体育部 男女合同にて十四日風越へキャンプをなす。
時又支會 十六日午後より門島ダムへ行きボートに乗り門島發電所の見學を行ふ。
上川路支會 十六日風越にてキャンプを行ふ。
竜丘青年會
委員長更迭す
後任委員長 下平一君
青年會委員長下平三郎君は

就任以來献身的の努力を盡して我等統後青年の使命へ向つて活動なし居たりしが、今度一身上の都合により辭任のや

トッコロ
「イツモ」の腐つた物ばかり食わしやがる。そして俺の家は年中「ドブ」じゃないか、え、死んでやれ」とばかり豚君がコロコロ、ビツクリしたのは豚ならず養豚家連中「昨日はあの村で何頭死んだ。今日はこつ

竜丘組合十四年夏蠶品種別受入表

品 種 別	メ	雌	繭重平均
改中巢×一〇七	五、五五〇	四、四〇〇	四、四〇〇
改中巢×新	五、五〇〇	四、三〇〇	四、三〇〇
鐘 白×新	一、〇三〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇
三又白×新	三、九〇〇	四、二〇〇	四、二〇〇
分離白×新	三、九〇〇	四、二〇〇	四、二〇〇
一一二×一一〇	一、六、五〇〇	四、三〇〇	四、三〇〇
計	七、三〇〇	四、三〇〇	四、三〇〇

備考 一、前年度實數 六、五五〇、七〇七、七〇七、七〇七、増加
二、右受入は八月十七日現在に付き其の後若干入荷の見込みあり。

編輯後記

土用も暑いと云ふ内に通り越し早や残暑となつたが日中はなかくの暑さ夕立雲は毎日立つが氣のきいた雨がないので人も、畜類も、畑の作物も焼け出した。一雨ほしいなあ!とは皆一様な思いだ夏蠶の上と思ふ間に秋蠶の仕度、其の間には田も見ると言ふ風で一寸の暇も百姓にはない。この多忙な時に我編纂部も部員の骨折と各位の御厚意によつて八月號發行の運びとなつた。けれど色々都

統後の御家庭は
第一時計の正確から
販賣並修繕は御安くて正確な當店へ
時又 伊藤時計店

洋 足 品 類の御用は
田中屋胖物店
勉強の當店へ

みたらしだんご
大 福 餅の御用は
若松餅屋店へ

増産の源は体力にあり
其の源は肉食から
馬肉大勉強 細井亭精肉店
電話二十四番

七トモノと時計の
御 用 は
是非勉強の
宮澤へ御指名下さい

正しい検眼は
是非共メカネ専門醫へ
馬場町 林眼鏡店

奴餅

毎度有難う御座ります。
御茶菓子には當店の万十